

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第7回金谷区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

（1）令和3年度の「ヨーデル金谷」における市及び指定管理者の収支状況等について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

（1）諮問事項 新市建設計画の変更について（公開）

（2）金谷区の地域活性化について（公開）

4 開催日時

令和4年9月28日（水） 午後6時から午後7時31分まで

5 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

—

8 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）

石川美恵子、大瀧幸治、加藤國治、小林雅史、高橋敏光、高橋 誠

高宮宏一、長 和子、土屋博幸、平良木美佐江、益田侑季

（欠席1人）

・市役所：施設経営管理室 竹下室長、小関経営管理係長

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、小池係長、難波主任

9 発言の内容

【難波主任】

・山本一男委員の辞職について報告

・神崎委員、長委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する

条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：石川委員と益田委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 報告（1）令和3年度の「ヨーデル金谷」における市及び指定管理者の収支状況等について —

【村田会長】

次に次第3 報告（1）「令和3年度の「ヨーデル金谷」における市及び指定管理者の収支状況等について」に入る。

市の施設経営管理室より説明を求める。

【施設経営管理室 竹下室長】

- ・挨拶

【施設経営管理室 小関経営管理係長】

- ・資料No.1により説明

【村田会長】

ただ今の報告・説明について、質疑を求めるがなし。

説明にあった、今年度、ヨーデル金谷で行われた試食会には、山井副会長と川住副会長の2人が地域協議会委員として出席し、私は平山町内会長として出席して、食事をいただいた。質疑を求める前に、私から試食会で記入したアンケートについ

て質問したい。私たちもアンケートを記入したが、その結果として、具体的にどのような意見や感想があったのか、教えてほしい。

【施設経営管理室 竹下室長】

試食会への参加者には、詳細な調査結果の分析状況等は、まだ示していない状況である。

参加者からの意見として多かったものは、今回、新たなメニューも提供したが、日頃食べていないような料理であり、味は大変おいしかった、という高い評価をいただいたところである。

また、これまでは敷居が高いたたずまいというか、なかなか入りにくいような状況だと思っていた人が多かったという回答もあった。

だが、実際に入ってみて、気軽に利用できる洋食屋だと改めて認識をもった、との評価もいただいている。

ただ一方で、「町の気軽な洋食屋」としては、若干、メニューの価格設定が高めだということで、売上原価の削減といったところから、もう少しメニューの価格帯を低くしてもらえれば、より一層、利用促進が進むのではないかと、この意見もいただいたところである。いただいた意見を基に、会社・ヨーデル金谷の支配人・市で対応策等を検討して、改善策による利用促進につなげていきたいと思っている。

【村田会長】

他に質問等あるか。

【土屋委員】

大した質問ではないが、「出資法人等経営状況報告書」という資料の2ページ目の「【第25期の主な取組】」に「(2) ヨーデル金谷」とあり、「リリエンフェルト姉妹都市40周年記念事業キャンペーン」と記載されている。

勉強不足で申し訳ないが、これほどこの都市で、それがどこにキャンペーンとして還元されているのか、教えてほしい。

【施設経営管理室 竹下室長】

私も勉強不足のところもあるが、オーストリアの都市だと認識している。

基本的にオーストリアのリリエンフェルトで提供されている同じようなメニュ

ーをヨーデル金谷でも提供し、交流都市の料理を堪能いただく、といったイベントである。

【土屋委員】

それらの料理が、配布された資料に載っているのか。

【施設経営管理室 竹下室長】

リリエンフェルトとの記念事業キャンペーンについては、特別な料理であったため、期間を区切った中での提供であった。

本日配布した資料に載っているものは、今現在、ヨーデル金谷で提供しているメニューである。

【高橋敏光委員】

リフレ上越山里振興株式会社は、「ヨーデル金谷」と「くわどり湯ったり村」の二つの事業所でやっていると思うが、事業内容は全然違う。

損益状況を見ると、売上に対して借金の方が多いため破産状態だと思う。

市も株主になっていると思うが、仮に破産した時に、ヨーデル金谷を一度整理し、独立して別にヨーデル金谷だけで営業することは可能なのか。

管理会社が破産してなくなったとしても、整理はすると思うが、ヨーデル金谷はそれほど赤字でもないため、やはり地元としては何とか残したい気持ちもある。

その場合には分けて、後で独立して営業等することはできるのかどうか、現時点での考え等を教えてほしい。

【施設経営管理室 竹下室長】

決算書にも記載のとおりであるが、現在、債務超過が約3,600万円となっている。また借入金として、負債が6,700万円ほどある。

これらが債務超過に陥っている現況でもあるが、当初、負債が多くなった理由として、「ヨーデル金谷」の部分と「くわどり湯ったり村」の部分をそれぞれに分けることができない状況であった。「くわどり湯ったり村」と「ヨーデル金谷」の事業を進めてきた結果として借金が残っている、債務超過の部分が生じていると考えている。

そのため、「くわどり湯ったり村」に全ての負債を押しつけて、「ヨーデル金谷」

だけで会社を分けて事業継続ということは、なかなか難しい状況かと考えている。

ただ、懸念にあるように、例えば、リフレ上越山里振興株式会社自体の資金が回らなくなり破産したという話になったとすれば、それぞれの会社の事業を誰かが引き継いでくれるよう、市としても尽力していく等の考えはもっている。

会社が倒産したからといって、「ヨーデル金谷」自体の営業がすぐにできなくなるように、例えば、「ヨーデル金谷」の事業自体、雇用もまとめて引き継いでくれるような方を、早急に市が探す又はリフレ上越山里振興株式会社の清算人が探す、といった手法の中で、「ヨーデル金谷」自体の存続を図っていくようなことは可能かと考えている。

そういったことについては、市としてもあらかじめ想定される部分であり、いろいろと準備等もさせていただければと考えている。

【高橋敏光委員】

市全体の考え方だと、「施設の見直し」ということでバタバタと大事な場所までも売却してしまっている。

このままいくと、市民サービスというものは全然なくなってしまう。

新潟県内で上越市は、今年、「住みやすい町」の5番目になった。5番目はかっこいいことだと思うが、今後も同じようなことを続けて、雪の始末をはじめとして、一番住みにくいまちになっては困ると考えている。

また、バタバタとサービス業の施設をなくしていくことはよいが、私としては改めて作ってもらいたいものがある。

20年前、「ヨーデル金谷」のところに、前々々市長の頃の話だが、クラフトビールの工房を作り、ヨーデル金谷と一緒に運営していくことができれば利益が出るのではないか、という話があった。私はその話を盛り上げたいと思い、考えている。

今も「青年会議所が浜で大麦を作った」「新井で小さなクラフトビールを作った」など、そのような声が聞こえてくる。やはり、同じような考えを持っている人がたくさんいるのだと思った。

もっと献身的になってほしい。何かあれば「潰そう」という、今の上越市のやり方はどうしても気に入らない。市民サービスも何もなくなってしまう。

事業をするための資金は、やはり市で財源を確保していかなければいけないと思う。財源を用意できないからといって全て潰しては、市民サービスも何もかもなくなってしまう。

福祉の関係では、三和の温泉施設を千葉の人に対して、福祉サービスの方に向くということで多分500万円で売ったと思う。ただ「500万円で売った」という話を聞けば、皆、驚くと思う。なぜ500万円で売らなければならないのか。

また、吉川の酒蔵も大事な資産である。吉川の杜氏の有名な場所である。それ自体を売ってしまっている。

上越市はどうなっているのかと、本当に腹立たしい毎日を暮らしている。

潰していくのではなく、もう少し建てる話もしていきたいと思っている。

回答は不要だが、頭に入れておいてほしい。

【小林委員】

コロナ禍の状況もあって、一旦、3年間は民間への譲渡等の検討は保留というかたちになっているが、仮に、民間が手を挙げた場合には、まずは、リフレ上越山里振興株式会社から「ヨーデル金谷」だけを外すことが前提だったのか。

【施設経営管理室 竹下室長】

当初、3年ほど前に「サウンディング型市場調査」ということで、民間事業者との対話調査をコロナ禍になる前に行った。

参加者から意見をいただいた際、「ぜひ、うちで行ってみたい」という声もあった。

その時の考え方からすると、今の事業自体をそっくりそのまま会社に引き継いでいただく、例えば、雇用等も引き継いでいただき、会社は変わるが事業は引き続くことを想定していた。

ただ、ご承知のとおりコロナ禍で当初、考えがあって手を挙げていただいた方々が、総じて、「今の状況の中では厳しい」という話であったため、現状どおり続けている状況である。

【小林委員】

仮に、世の中が変わって、またそのような流れになった場合には、リフレ上越山

里振興株式会社がその業者に資産として売却するようなイメージになるわけか。

【施設経営管理室 竹下室長】

公の施設として、「ヨーデル金谷」の施設自体は上越市のものである。そこを今、管理会社であるリフレ上越に管理を委託している状況である。施設自体は市の所有である。

仮の話になるが、今ほど高橋敏光委員からも話があったが、この間、行政が「施設も作る」「第三セクターも作る」等、行政サービスに直結するようなものを全て行政の負担でいろいろと進めてきた部分がある。正直、温浴施設もしかりである。ただ、温浴施設自体を適切に経営できる能力自体、なかなか行政職員にもない。それはなぜかという、同じような事業自体を民間事業者が既にされている。そういった方々と競争関係になる話であるため、そこは行政が全てやるのではなく、例えば、民間事業者で経験ノウハウを持っているようなところからも携わっていただく必要が、施設を本当に残していくのであれば、検討していかなければいけないのではないかと考えた中で、「サウンディング型市場調査」を実施した部分である。

今後、施設をしっかりと残していく・従業員の雇用も守られていく、という前提が成り立つのであれば、リフレ上越山里振興株式会社自体がヨーデル金谷を担う必要性というものは、正直、個人的にはあまり感じていない部分である。

施設が残る、しっかりと事業が残る、残せるための方策を、機会があれば、しっかりと考えさせていただければと考えている。

【小林委員】

金谷区地域協議会としても、高橋敏光委員の話にもあったように、皆の知恵を絞って、少しでもよい方向に向かうよう、考えたいと思うため、早急な結論は出さずに、地域協議会としてもいろいろなアイデアで応援していきたいと思っている。

【石川委員】

普段、時々しか利用しないが、メニューが大体、2,000円くらいだが、家族で軽く1,000円くらいで食べられるようなものは、プライドがあってできないのか。

次に、朝、金谷山を散歩する人が多い。その人たちに向けて、開店時間を早くし

でワンコインで、500円くらいで軽く朝食というか、簡単な洋食がとれるようなものを提供すればよいと思っている。これはあくまでも庶民の意見である。

【施設経営管理室 竹下室長】

まさに意見のとおりであり、結局、ヨーデル金谷自体の需要や、利用者がどう思っているのか、そこに合わせていかない限りは、なかなか経営は成り立たないものである。

この間、コロナ禍前というと、やはり一定の高い料金を出しても利用していただける方々が、主の顧客であったのかと思っている。だが、人口減少や利用者の志向の変化も様々である。そういったことを考えると、やはりお客様から来ていただけるようなメニューと価格設定で追求していかなければ、なかなか経営健全化にはつながっていかないと考えている。

そこは市としても、リフレ上越山里振興株式会社と十分に協議し、顧客から受け入れていただけるような状況を目指していきたいと考えている。

【村田会長】

他に質問等あるか。

【大瀧委員】

これについての意見もいろいろとあると思うが、「出資法人等経営状況報告書」の3ページに「損益計算書」と「貸借対照表」が載っている。第三セクターであっても営利行為を行っているわけである。

そうすると、上に記載されている損益計算書はよいとして、下の「貸借対照表」からは、どのような経営状況か分からない。

もう少し、営利行為を行っているため、営利企業の損益計算書と、営利企業の貸借対照表を作ってもらわなければ、どのような資産や負債があるのか分からない。

第3セクターであろうが、一応、行っていることは営利行為を行っているわけであるため、営利企業の損益計算書と営利企業の貸借対照表を作ってもらわなければ、どんな資産を持っているのか分からない。ただ金額だけが載っている。

今回は仕方ないとして、次はちゃんと考えて計算書を作ってもらいたいと思う。

私はこれを見て、どう判断してよいか分からない。

【施設経営管理室 竹下室長】

前段で説明したとおり、リフレ上越山里振興株式会社はご承知のように、会社法に基づく法人であるため、しっかりと会社として、損益計算書・貸借対照表を作成している。

経営状況報告書にまとめる際、概要をまとめて、本当に必要最低限の項目のみ、今回は示している。

議会にはこの報告書の他に、会社の決算書そのものを付けている。

今ほどの大瀧委員の指摘のとおり、次年度以降、経営状況報告書にしっかりとした会社の決算書の分かるところをしっかりと付けるよう、配慮させていただければと考えている。

【村田会長】

以上で次第3 報告（1）「令和3年度の「ヨーデル金谷」における市及び指定管理者の収支状況等について」を終了する。

【施設経営管理室 竹下室長】

本日は時間をいただき、感謝する。

また、金谷地区においては、施設経営管理室が管理している「金谷山公園」という重要な施設もある。

9月議会で宮越馨議員より、「金谷山公園についても、しっかりと管理のあり方を検討するように」といった質問もいただいたところである。

この間、金谷山公園については、いろいろと話題としては出てくるが、本当に公園自体をどうしていくべきなのか、どう管理していくべきなのか、そういった話題もなかなか議論されないまま、時間が過ぎてきている。

私としても非常に重要なものだという認識もあるため、改めて、地域協議会と協議させていただく場を設けさせていただければと考えている。

（施設経営管理室 退席）

— 次第4 議題（1）諮問事項 新市建設計画の変更について —

【村田会長】

次に次第4 議題（1）「諮問事項 新市建設計画の変更」に入る。事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・資料No.2により説明

【村田会長】

- ・ただ今の説明に限定し、質疑を求めるがなし。

質問等がないため、採決に移る。

諮問第29号 新市建設計画の変更について、「地域住民の生活に支障なし」だと思う委員は挙手願う。

（全員挙手）

意見等もなかったため、金谷区として附帯意見を付けずに、答申することとしてよいか。

- ・了承を得る

では、金谷区として、附帯意見等を附さずに「地域住民の生活に支障なし」と答申することで決定する。

【石川委員】

特に意見等があるわけではないが、変更案の中に人口がどんどん減少し、働き手のうち、「二人に一人がいなくなる」と記載されている。「何年間の間に」「63,000人減少」と淡々と書いてある。

これは統計であるため仕方がないと思うが、これについて、何か意見があるとも言えず、何も言えないが、大変なことだと思っている。

この場で「意見がない」ということ自体、何かおこがましいような感じだが、仕方がない。

私も子どもが2人いるが、孫はおらず、これはどうしようもない。

市がどのように考えているのかは分からず、むしろ考えたところでどうすることもできないと思うが、本気を出していかなければ大変なことになるという思いを抱いた。

【村田会長】

令和27年という、これから23年後であり、まだ皆、元気だと思ふ。

将来を見越した統計的な数値なのだと思う。

63,000人減少するという事は、大変な事である。

25年後には2.5人に一人が高齢者、つまり65歳以上になるという、統計的な数字だと思う。このような見込みだというのである。

もしかすると、私たちの時には平均寿命がもっと高まっているかもしれない。

80何歳ではなく、90何歳になっているかもしれない。

【小林委員】

私も資料を読んだときに、石川委員と同じことを思った。

ただ、変更点は数値だけである。その数値の変更についての諮問でしかないわけであり、これについては異論がない。

ただ、計画そのものが、数字の変更だけでよいのかは疑問である。

それについては、多分、今後パブリックコメントが始まると思うため、意見がある人は意見を思う。新市長が言うように、これから子育てや外から人を連れてきて人口減少をストップさせて、という、本来であれば、そのスケジュールも含めて新しい計画を作成すべきなのではないかと資料を読んでいて思った。

だが、今回の諮問では、多分そういうことではないのだろうと理解している。

【難波主任】

諮問の内容については、小林委員の発言のとおりである。

今回は、数値の変更ということ、主に諮問の内容としているので、了承いただきたい。

【村田会長】

以上で次第4 議題（1）「諮問事項 新市建設計画の変更」を終了する。

— 次第4 議題（2）金谷区の地域活性化について —

【村田会長】

次に次第4 議題（2）「金谷区の地域活性化について」に入る。

資料No.3を確認してほしい。

委員Aから委員Iまで、9人の委員の意見や思いが4ページにわたって記載されている。

この委員Aから委員Iまでの一つひとつの意見について、確認していきたいと思う。

最初に委員Aについて、意見を求める。

【石川委員】

委員Aは、すごく良いことがたくさん書いてある。

その中でも自分がよいと思った意見は、「農家産直市場」である。

今、JAで「あるるん畑」というお店を東の方でやっており、すごく好評とのことである。あのようなお店を、ぜひこちらの西のほうにも欲しいと思っていた。

ヨーデル金谷との連携で、「クラフトビール」との意見もあるが、個人的には「農家産直市場」に力を入れることができれば、活気が出るのではないかと考えているため、この意見に大賛成である。

【小林委員】

資料No.3に記載されている意見については、匿名でいくのか。

匿名のままでは、進めにくい気もする。

【難波主任】

特に匿名でなくてはいけないということではないため、「これは私の意見である」と言っていただいても構わない。

【小林委員】

では、これは私の意見である。

私を書いたこととして、「道の駅」というポイントが一つある。

それは公的な支援をたくさん得ることができるため、市の独自財源だけではなく、やるきっかけにもなるかと思い、一つの方法として「道の駅」を挙げた。

先ほど、市の施設経営管理室が、金谷山公園自体、このままでよいのかと話していた。やはり、単独で全ての決着がつくわけではなく、金谷山公園もそうだが、ポ

ブスレー・スキー場・ヨーデル金谷・新しくできる公民館、そしてBMXも全て有機的に結合させていかなければいけないと思う。

そして、高橋敏光委員の発言にあった、「クラフトビール」といったものも含めて、「どの委員が、何を言った」ということだけではなく、例えば、この金谷山周辺、私たちの一番の懸案事項である「ヨーデル金谷」も含めて、皆のアイデアを結合させていき、行政に対してこのような提案ができる、といったような資料をまとめる方向性で話していけば、面白い気もする。

【村田会長】

実は昨日、金谷山公園について施設経営管理室の施設管理係長より「10月以降、夜間の公園への乗入れが、シャットアウトになる」という連絡があった。

理由として、8月頃に新聞等で見たとと思うが、ボブスレーの下にあるトイレに落書きが頻繁に行われているため、修理するとのことである。そのように非常に厄介な事件になっており、それを防ぐ意味もあって、夜間の乗入れは禁止するとのことである。このような連絡が関係4町内の町内会長にあったと思う。そのようないたずらをする人がいるのだと、改めて認識した。犯人が金谷地区の住民でないことを願いたい。

金谷山公園・ヨーデル金谷・金谷地区公民館の三施設が連携し、金谷区のシンボルであるため、活性化につながればよいと私もこの事項について賛成をしている。

次に委員Bの意見について、意見を求める。

・発言なし

次に委員Cの意見について、意見を求める。

箇条書きで思いつくままにたくさんの方が書かれている。

・発言なし

後から振り返って、意見交換をいただいても結構である。

次に委員Dの意見について、意見を求める。

【平良木委員】

これに関連して、思ったことを話す。

金谷区の良いところは何かと考えたときに、自然が身近なところにあるというこ

とを感じる。あまり奥まで行かなくても、住宅地のすぐ近くに散策道など、素敵ないところがたくさんある。私も「ふるさと道はよい」といったことを言われ、また、「最近では整備しているのか」と聞かれたときもある。その一方、地域活動支援事業等を見ると、いろいろなところで地域の人的一生懸命に整備しているところがある。そういうものを、私は観光で誰かを呼ぶ、という発想ではないが、市民が楽しめる・自分たちで楽しめる場所として、例えば、そういうものがつながったり、中ノ俣や滝寺とつながったりして、みんなで自然を楽しめたら良いと思っている。

【村田会長】

他に意見等あるか。

現在、委員Dのところまできている。

・発言なし

次に委員Eの意見について、意見を求める。

【川住副会長】

地区公民館については、場所等は決まっているためよいが、あるところで、「場所の問題で金谷区はもめている」と言われたことがある。

金谷地区振興協議会や町内会長会と市の担当課が来て説明した場面と、この協議会として聞いた場面と、別々に話を聞いていた経過がある。

同じ説明を二つの場面で聞くことは、あまり良くないのではないかと思う。

現在、地域側は振興協議会が中心的に動いているため、公民館ができるまでの間、地域域協議会から2、3人を専任で送り、同じ場面で意見を聞くというか、そういうことが一番、望ましいのではないかと思う。

この前、特別委員会のようなものを作ってやったが、それと同じような関係で同じ話は一回で皆に分かるようにする。

次に、先ほど委員Dで儀明川の話が出ていた。私は今日、県と市へ出向き、儀明川ダムの話をしてきたが、川の附帯施設というか、そういったものを変える際には県は許可を出す立場であるため、市等に話を通してほしい、との説明を受けた。

ダムの完成は10年ほど先になるため、植樹等をすると工事の邪魔になってしまうこともあって、今、私たちは何もしていない。

だが、儀明川になんとか鮭が上るようにできないかという考えを持っている。1か所だけ堰がある。昔、大和の裏に鮭が来たという話があり、そこまでは来るがそこから上には上れない。今はその堰が不要になり危険な状態になっているため、県に撤去等を交渉した。だが、県は撤去する許可はするが、作った人たちで改善してほしいとの結論であった。

将来、儀明川ダムができる頃に、鮭が駅前や旧大和の裏を泳いで遡上するようなことになる、一つの観光事業になるのではないかと考えている。

それに併せて、地区公民館については、確かに建物の構造そのものもあるが、昔は結婚式場だったこともあり、周辺に木がたくさん植えられている。それを撤去すると駐車場はすごく広がると思う。元から周辺に木がたくさんあるのに、さらに植木がたくさんある。

雪国であるため、木を一本管理することは非常に大変なのである。

冬囲いや剪定等、そういった細かい問題は市と交渉になるが、それは振興協議会や町内会長会、そして地域協議会から選ばれた人たちで話し合うことがよいのではないかと考えている。

【村田会長】

委員Eの意見は川住副会長か。

【川住副会長】

私の意見である。

【石川委員】

今ほどの川住副会長の話で分からなかったことがあるが、話が違うということはあり得るのか。

それぞれの会合に代表が来るとなると、これもまた大変ではないかと思う。

そもそも、話がどこかで食い違うといったことがあること自体、問題だと思うが、どのように違っているのか。

【川住副会長】

食い違いということではなく、まず先に振興協議会に話が来て、そこである程度話が出た。そのため、「なぜ、地域協議会へは話が来ないのか」ということで、し

ばらく時間をおいてから地域協議会に話が来たということである。

そういう状態であったため、他の人から見ると、何か話がうまくいっていないのではないか、ということを実際に言われた。

時間のずれというか、かなりの時間差があった。地域協議会にはだいぶ時間が経ってから話が来たと思う。そのため、最初から一同に集まって聞くことができれば何も問題はないと考える。それだけのことである。

【村田会長】

次に委員Fについてである。

「この意見は私のものだ」と、高橋敏光委員は言っていた。この意見について意見を求める。

これは非常に素晴らしい、大きなプロジェクトだと思う。

【小林委員】

今週だったか、寺町3丁目にビール工房が一つをオープンというか、プレオープンすると書いてあった。

それとJCがやっているものと同じなのか否かは分からないものの、いきなり建てることもよいかもしいれないが、せっかく地元でそういった施設や店舗ができたのであれば、コラボレーションをしてオリジナルのテイストで作ってもらうこともよいかと思う。

せっかくできたのであれば、一つの施設を効率的に有効に活用し、その上で次のステップに行くことも面白いような気もする。

【村田会長】

寺町3丁目のビール工房は、二週間くらい前だったように思う。

【小林委員】

あれは多分、イタリアンレストランの経営者の方がやっているのだと思う。

【村田会長】

残りの委員G・H・Iの3人の意見について、まとめて意見等を求める。

【小林委員】

委員Iの意見にあるように、私もずっと思っていたが、ヨーデル金谷で休日のラ

ンチ向けの商品をラインナップして、金谷山で遊んでいる人たちがオーダーしたら、届けてくれるようなことも良いと思っている。

この場で「こういうことをしよう」と言うよりも、皆のいろいろなアイデアを広げて、「こういう手がある」ということを煮詰めていったほうが良い気がする。

【石川委員】

クラフトビール工房について質問である。以前、大手のビール工場の見学をしたことがある。その時、原材料を入れてから2か月で製品が出来上がると聞き、すごいスピードでできるのだと思って驚いた。

日本酒の仕込みは、だいたい一年に一回くらいだと思う。これは本当に、水商売だと思った。そこはすごい仕掛けであった。一回で相当な量ができるような仕掛けであった。

今ほどの地ビールのお話を聞いていると、個人等でもできそうな感じがしているが、もしも、こういった工房等を作った場合、収益は個人の会社のものになるのか。それとも、金谷区全体に何かしら良いことがあるのか、教えてほしい。

【村田会長】

高橋敏光委員、これは行政で云々という方向性で考えることで良いか。

【高橋敏光委員】

クラフトビール工房のことについては、振興協議会や個人で作るということではなく、市にお願いをしたいものである。

そのため、市が作れば市のものであり、市が運営管理することになると思う。指定管理者なのか否かは分からないが、とにかく市の管理の下で、ヨーデル金谷と一緒に仕事ができれば良いと思っている。まして、あの場所に地区公民館も来る。

地区公民館について、以前に平屋建て云々の話があったが、大貫のゲートボール場にある趣味の家も平屋である。そして、ヨーデル金谷も平屋であり、特に何も困っていないと思うため、心配はないと思う。

石川委員より、「大雪になった際、どうするのか」といった心配する声があったが、最近はこちらの建物で平屋が多くなってきた。使い勝手がよいとのことで、平屋にしているようである。

このクラフトビール工房については、どういうふうな格好になるのかは分からない。現在、前の図面を探してもらっているが、市で資料を保管する期限が10年しかないようであり、ちょうど20年経っている。昔の資料がなくてもよいが、現在、とある市議会議員より「思い出してほしい」ということで、動いてもらっている。

クラフトビール工房・ヨーデル金谷、そして、できれば地区公民館でタイアップできればと思っている。公民館を利用する人でヨーデル金谷を利用する人もいると思う。「食事をしながら一杯飲みたい」という話もあると思う。市は消極的な考えばかりしているが、活性化につながる新たな事業も必要だと思っている。

先ほど、公民館について、いろいろな窓口がたくさんある、との話があったが、金谷地区には町内会長会、振興協議会などがある。振興協議会では、金谷地区の要望等をまとめて、市に提出している。そのため、一番最初に振興協議会へ相談に来ることは、市側としても当たり前のことだと思う。要望した側へ返事がくるのが普通だと思う。振興協議会を飛ばして、地域協議会へ返事が来ることはあり得ない話だと思うため、それが常識だと思っている。

【石川委員】

クラフトビールのことは理解した。ビール工房も良いが、お酒は20歳以上の方が対象であるため、産直市場のように全員が対象になるようなものの方が私は興味が湧く。

先ほど高橋敏光委員から話があった2階建ての件であるが、雪は相当たくさん降る。除雪は大変だと思うため、私はどうも腑に落ちていないが、皆の良い方で考えてほしい。

【村田会長】

いろいろな意見をいただいた。結果的には、資料No.3に記載されている9人の意見を改めて取りまとめて、方向性の結論を出していきたいと考えている。

本日は一つひとつに意見をいただいたということで承知願う。

以上で次第4 議題（2）「金谷区の地域活性化について」を終了する。

【村田会長】

次に次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・ 次回協議会：10月20日（木）午後6時から 福祉交流プラザ
※前回の会議では「10月26日（水）」としていたが、都合により変更する。
- ・ 次々回協議会：11月22日（火）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・ 当日配布資料：上越市第7次総合計画 市民説明会の開催（案内）
上越まるごと文化祭2022（パンフレット）
男女共同参画推進センターの講座チラシ（4枚）

【村田会長】

- ・ 事務局の説明について、質疑等を求めるがなし。

今ほどの事務局の説明にあった、令和5年度の元気事業に予算化する内容について、次回10月20日の地域協議会で説明等があると解釈してよいか。

【滝澤センター長】

回りの地域協議会で示すものは、提案のあった取組についてである。

それらについて、今は基本的に予算要求に上がっていくと思っているが、内容によっては上がれないものもあると思う。提案のあった取組について、上がるもの・上がらないものの判断を含めて、資料として報告したいと考えている。

【村田会長】

提案は既に事務局で受けているのか。

【滝澤センター長】

令和元年度から今年度に地域活動支援事業に提案した対象となる団体が、金谷区では28団体であった。そのうち、説明会に出席した団体は9団体であった。

今の時点で、提案しようと話をいただいている団体は4団体である。

【村田会長】

金谷地区からは、4件しか申請がなかったということか。

【滝澤センター長】

説明会に出席したが提案していない団体が、現時点で5団体である。もしかすると、提案を忘れていた又は見積書を待っていて間に合っていないなどの事情もあるかと思うため、提案が無い団体に対して確認したいと思っている。

【村田会長】

締切りはあるが、それは寛容に事務局で手配をしているということか。

【滝澤センター長】

昨日が締切りであった。今後は予算要求資料提出期限となる10月21日に向けて事務局内での作業ということになる。その期間を使って確認していきたいと思っている。

【村田会長】

- ・会議の閉会を宣言

10 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。